

3月2日

地方自治の理念に基づく
港湾法、管理者として責任を
港湾局審査で赤田かつのり議員



質問する赤田かつのり議員

神戸港は1974年まで米軍基地があり、市民の闘いで全面返還させました。1975年には神戸市議会でも非核「神戸方式」

予算特別委員会審査から②

1. 平和な神戸の港について
2. 実体経済にあった港湾政策を
3. 過剰な神戸空港「国際化」への投資について
4. ウォーターフロント計画の中止について

質疑項目

(神戸港に入港を希望する外国艦艇に核兵器を積んでいない証明書(非核証明書)提出を義務づける決議)が全会一致で採択されました。しかし、昨年久元市長は決議の採択以来なかった「非核証明書」提出なしでの米艦船の入港を認めました。赤田議員は2月25日の本会議で海上自衛隊阪神基地隊が3月18日に神戸港への艦艇の入港を計画していることを指摘し、神戸港の軍事利用は許さないと迫りました。港湾局審査では「戦前・戦中の国家による軍事利用の反省から制定

された港湾法にあるよう、港湾管理権は自治体の権限がある」と質しました。

答弁ダイジェスト

小沢副局長：港湾法と関連法令に基づき、権利の範囲内において適法・適切に手続きをする。

赤田議員：米国とイスラエルがイランを攻撃し、不安が広がるなか、米軍艦や自衛艦を受け入れるのは市民を危険にさらしかねない。日本政府が神戸市に(艦船の)受け入れを求めた場合は拒否すべき。

長谷川局長：仮定の話についてコメントする立場にない。

赤田議員：港湾法は日本国憲法に基づいてつくられた。国際商業貿易港である神戸港の軍事利用につながる自衛艦や米艦船の入港は相容れない。

3月3日

公的責任果たし市バス
廃止・削減は撤回を
交通局審査で前田あきら議員



質問する前田あきら議員

1. 須磨路線の廃止減便・大幅減便について
2. 小児料金の対象者の引き上げについて

質疑項目

神戸市は、4月のダイヤ改正で大規模な市バス減便を発表しました。さらに、8月実施の須磨エリアの路線廃止・再編と合わせると、市バス全体の8%もの減便となります。利用者や地域から不安の声が出ていますが、交通局は昨年実施した地元説明会で「大筋理解を得た」などとして計画通り減便・廃止を進めようとしています。前田議員は、神戸市が生活路線に不可欠な不採算路線を守るための交通局への補助金を減額したことを批判。原油高騰を含め必要な財政支援を確保して、路線見直しや減便を撤回すべ

きと質しました。

答弁ダイジェスト

前田議員：大筋地域の理解を得たというが、例えば北須磨団地はどうか。

児玉副局長：北須磨団地から路線を廃止してもよいというお言葉は頂戴していない。

前田議員：理解を得られていないではないか。地元からの意見は市長に伝えているはずだが、市長から再編案の見直しなども含めて指示や意見はあったのか。

児玉副局長：逐一報告しているが、大きな方針については市長も承知をいただいている。

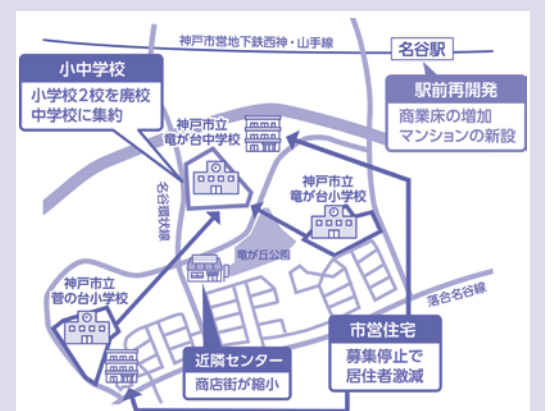
前田議員：補助金を減額する一方、減便廃止方針を追認している市長は「公的責任」を果たしていると言えない。

『市バス&地域ウォッチング@名谷』開催!!



参加者に説明する前田あきら議員、味口としゆぎ議員

日本共産党神戸市会議員団は29日に「市バス&地域ウォッチング@名谷」を開催し、40人の参加者が集まりました。参加者は、神戸市が進めた地域の商店街の縮小や市営住宅の削減、小・中学校の統廃合で子どもが遠距離通学を強いられる実態を見学しました。参加者からは「駅前には高層マンションが建っても周辺は衰退している」「こんなときに市バスを減便するなんておかしい」などの声が上がりました。



3月3日

王子公園再整備

子どもの利益が最善となる計画へ 建設局審査で味口としゆき議員



質問する味口としゆき議員

- 1. 王子公園の問題について
- 2. 湊川のトンネルの化粧板の落下事故について
- 3. 湾岸道路の計画について

質疑項目

王子公園の再整備計画では、弓道場の建替え工事により「ちびっこ広場」と「わんぱく広場」が来年2月中旬まで使用できなくなります。味口議員は、子どもに犠牲を押し付けるのではなく、子どもの利益が最善となる計画への見直しを求めました。また市が大学誘致計画の前提とする関西学院大学の計画が明らかになっていない間に再整備だけ進めるのはおかしいと神戸市の姿勢を質しました。

答弁ダイジェスト

味口議員：プールやサブグランド、

ちびっこ広場やわんぱく広場もなくなる。近所の保育所の子どもたちが遊びに行く場がない。スタジアムの建設で小学校は運動会の場所に困る。いろんな問題が子どもをめぐって出てきている。子どもを犠牲にしてまでやることか。

原田王子公園再整備本部長：弓道場はみんなの広場を確保するため西側に再配置し、王子プールは老朽化もあり廃止して他のプールを利用していただく計画だ。その分、親水広場や健康づくりに資する施設、新たな遊具など、幅広く子どもの皆さんに喜んでいただける施設を再整備していきたい。

味口議員：子どもの瞬間はその時だけで、待っている間に大きくなる。子どものことを最善にした計画にすべきだ。

3月4日

スポンジ化対策

市民の暮らしを第一に考えてこそ 都市局審査で森本真議員



質問する森本真議員

- 1. 都市のスポンジ化について
- 2. 新長田駅前・西市民病院について
- 3. 三宮再開発について

質疑項目

市民の利便性を低下させれば、人口減少や高齢化に歯止めがかからず、都市のスポンジ化（空家・空地）の進行による「都市の負のスパイラル」が起こるとしています。しかし、これまで公立保育所や市営住宅を廃止し、スポンジ化を広げているのは神戸市自身です。森本議員は、全ての市民の皆さんが便利に安心して暮らせるよう対策すべきと求めました。

答弁ダイジェスト

森本議員：都市局は、これまでも人口減対策として駅前リノベーションなどに取り組んできたが、長田の丸山地域では、バス路線廃止や減便、保育所や市営住宅を廃止したことで地域の皆さんが困

っている。企画調整局では、丸山地域に親水ゾーンをつくり、地下水の活用をすすめているが、これでスポンジ化が解決できるとは思えない。

山本局長：駅周辺をきれいにすれば、駅から離れた方々にもプラスになる要因があり、空家・空地対策や店舗立地支援もおこなっている。実態と合わない規模で維持することは、市の財政に大きな負担となりスポンジ化が進む。

森本議員：この間の取り組みで変わったことはあるのか。

山本局長：駅前リノベーションをした西神中央や名谷はいい方向に向かっている。

森本議員：それは駅前の神戸市の土地を民間マンションに変えただけで、全体がよくなったわけではない。すべての市民の皆さんの暮らしを守ることを第一に考えて取り組むべきだ。

ムダな大型開発やめ、物価高騰から 市民の暮らしを守り、福祉増進の市政へ



赤田かつのり議員が 意見表明

3月16日に神戸市予算特別委員会がひらかれ、日本共産党神戸市会議員団の赤田かつのり議員が登壇し、意見表明をおこないました。

久元市長が提案した予算案は、都心・三宮再整備、大阪湾岸道路西伸事業、神戸空港国際化など、大型開発に偏重した放

漫財政となっています。また、物価高騰等で苦しむ市民・事業者に対して「自助・共助」を押し付け、自治体が本来やらなければならない「市民福祉の推進」や困っている市民・事業者を助けるという役割に背を向けています。赤田議員は、2026年度神戸市会計

予算ならびに予算関連議案に対しての反対の理由を述べました。主な反対の理由は以下の通りです。

1. 物価高騰にまで市民に「自助・共助」を押し付けているから
2. 自治体としての公的責任を放棄し、物価高騰に苦しむ市民に負担増を押し付けているから
3. 公共施設を次々と縮小し、住みにくい街づくりを進めているから
4. 市民の命と安全を脅かす職員削減を引き続き強行しているから
5. 工事費高騰にもかかわらず、大型開発には巨額の予算をつぎ込み続けているから
6. 平和行政の推進や気候危機の打開、ジェンダー平等の実現、食品自給率の向上に対する取り組みが弱いから

また、日本共産党神戸市会議員団は、予算の編成替えを求める動議を提出しました。